

## 成果報告書

環境情報学部 2年 岩本乃蒼

### ■ 集会名称あるいは活動の名称

やまとなでしこプロジェクトにおいての湯河原きもの華クラブとの地域再興に向けての意見交換会、および現状調査。

### ■ 背景

伝統産業の衰退、産業の空洞化などクールジャパンという言葉が世の中に出てもなお、日本の産業を取り巻く状況は厳しい。その未だ活路を見出せていない“日本の魅力”を再発見、再発信すべく活動する【やまとなでしこプロジェクト】。そのプロジェクトの一環で神奈川県・湯河原町を中心に、温泉観光地としての再興をアンティーク着物という視点でアプローチを図っている【湯河原きもの華クラブ(以下、華クラブ)】と意見交換会および取材を行う運びとなった。今回は華クラブの主催する園遊会も含めて参加、調査を行った。

### ■ 問題

#### ○ 若年層の着物離れ

我々のプロジェクトの発足のきっかけにもなったのが、若年層の着物離れが著しいこと。着物の生産数、出荷数はピーク時に比べ減少することはもちろん、女子大生が中心のプロジェクトメンバー自身を感じているのは、自分たちが着物に触れる機会が少なく、日本人でありながら伝統的な装いに精通していないことへの不甲斐ない気持ちが少なからずあることに問題を抱いている。この生産側、そして若者の需要供給のマッチングを図ることのできる解決策を打診しなくてはならないと考える。

#### ○ 若年層の温泉離れ

温泉に入る、着物を着るという日本独特の和文化とされる行為への若年層の感心が薄くなっていることも問題のひとつにあげられる。湯河原町は神奈川県有数の温泉町、箱根、そして熱海など大型施設と老舗の両者を抱える温泉町に比較すると、規模という面では小さい。その中でも客層の獲得するためには町のブランディングを進める際のターゲットを限定しなければならないが、現状で若年層の訪問客が少ないことからまずは訪れてみる、そこからリピーターを生むことが必要と考えている。

### ■ 成果

今回の訪問では華クラブの主催するアンティーク着物に触れ、着物で湯河原の町を歩くというイベントが催され、来客は神奈川、東京圏だけでなくロコミ、そしてネットでの宣伝によって集客された。中に

は初めて湯河原町を訪問した 20 代女性や大学生も参加しており、今回のイベントの目的であった、まずは“きもの世界と湯河原へ足を踏み入れてもらう”ことは達成した。

またイベント内でのコンテンツも充実、茶室での茶道体験やつまみ細工の体験なども織り交ぜ、今回の趣旨に見合った運びとなった。

#### ■ 今後の方針

前に述べたように、ターゲットを確立し“体験”という 1 回限りではない客層の確立を目指さなければこのプロジェクトの意味はなさない。従って、今後グッズ開発などの観光地としてのアプローチと着物という文化への関心を高める、底上げが図れるような展開をしていきたいと考える。1) 現地取材、意見交換会を継続し理解を高め、2) 着物を着て、温泉町を訪れるという日本文化再興のための一種のアイコンのようになるべくモデルを構築するプロジェクトとしていきたい。